

# 相談室だより No.3

令和4年9月5日発行

文京区立本郷台中学校相談

夏休みが終わってしまいましたね。2学期は始まったばかりなので、まだ調子が出ない人も多いかもかもしれません。早く、普段の生活リズムを取り戻せるといいですね。

さて、夏休みに読んだ本の中で、ちょっと気持ちが救われるようなエピソードに出会ったので、お裾分けしたいと思います。人は、存在するだけで価値がある、という話です。

ヘレン・ケラー(1880ー1968)という女性がいますね。

アメリカの社会福祉活動家・作家で、彼女は子供のころの病気が原因で目が見えず耳も聞こえず、話すこともほとんどできませんでした。彼女は、これらの障がいにもかかわらず、今のハーバード大学を卒業し、世界中の障がい者の福祉向上に貢献しました。目も見えず、耳も聞こえない彼女が、インターネットもスマートフォンもない時代に世界中を飛び回って障がい者の福祉向上を訴えたのです。どうやってそんな偉業を成し遂げられたのか。



ヘレンの活躍の陰には、アン・サリヴァン(1866ー1936)の存在がありました。ヘレンに、言葉という概念を根気強く教えた人です。そして生涯、ヘレンの活動をサポートし続けました。



ヘレンがサリヴァンに出会えたきっかけは、グラハム・ベルという発明家の存在です。電話の発明で有名なベルですが、ろうあ者の教育に力を注いだ人でもありました。彼のお母さんには聴覚に障がいがあったのです。もしベルのお母さんが健常者だったら、ヘレンはサリヴァンと出会えなかったでしょう。ベルのお母さんも、巡り巡ってヘレンの功績につながっています。

ローラ・ブリッジマンという女性も、ヘレンの母に希望を与えました。

ヘレンのように視覚と聴覚を失った女性ですが、教育によって読み書きを習得し話すこともできるようになった先駆者です。ヘレンよりも半世紀も前に生まれたブリッジマンは、障がいがあるというだけで家族からも疎まれていました。そんな彼女に、簡単な手話を教えた男性がいました。



彼女の家で雇われていた知的障がいのあるエイサ・テニーです。テニーに習った手話のおかげで、ブリッジマンは外界とコミュニケーションがとれることを知ったのです。



つまり、いろいろな人の存在が複雑な連鎖反応を生み、ヘレン・ケラーという奇跡につながったのです。

あなただって、「奇跡の人」の一人かもしれません。あなたが何気なくサポートしたり、手助けした人が巡り巡って奇跡を起こしているかもしれないわけですから。そうだとするなら、自分の価値を信じて生きてほうが毎日が楽しくなるかもしれません。

あなたが自分らしく過ごせるよう、一緒に考えていけたらと思っています。気軽に相談室へ来てみてくださいね。

#### 保護者の皆さまへ

相談室では、保護者の皆さまのご相談にも応じています。

お子様についてご心配なことがありましたら、どうぞご遠慮なくご相談ください。

スクールカウンセラー 中嶋(月・木) , 増田(火)

相談室直通電話:03—3811—2661

本郷台中学校(代表):03—3811—2571